
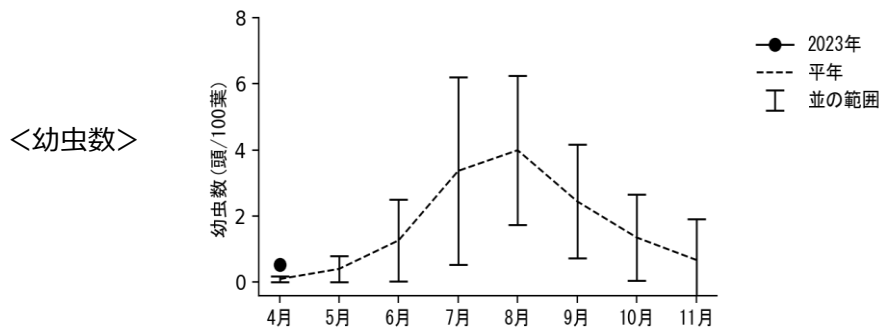
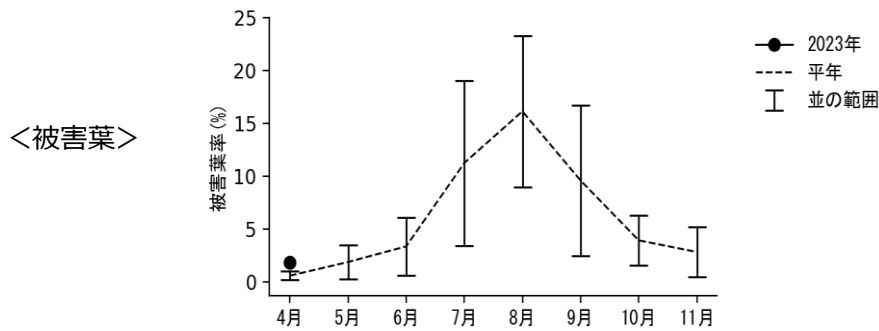


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	イモキバガ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	多	
予 報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の発生推移



・発生ほ場率16.7% (平年 : 63.6%)、一部ほ場で多発

防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。
- ・つづられた葉の内部に潜んでおり、直接薬剤がかかりにくいいため浸透移行性のある薬剤を使用する。

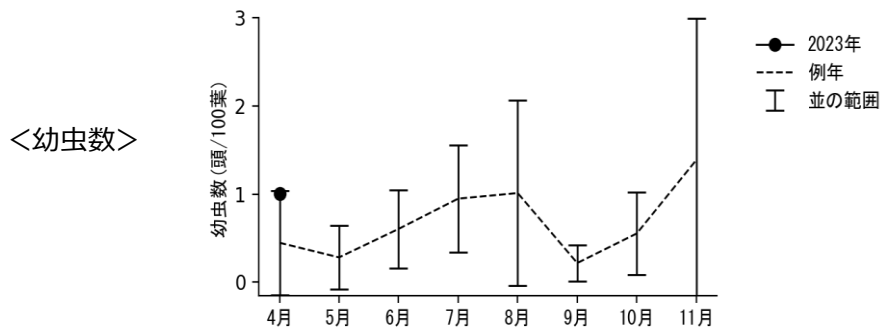
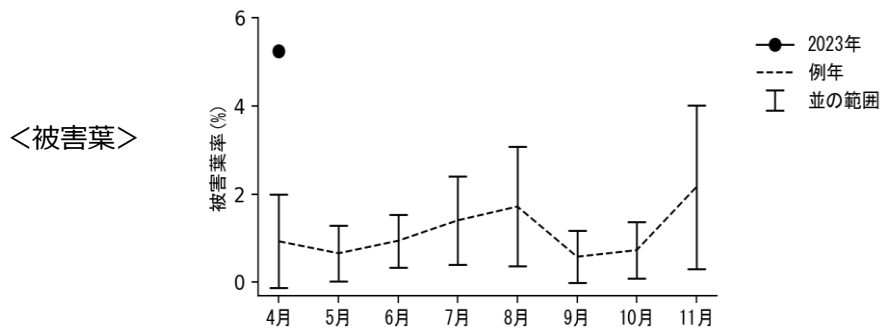


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① トリバ類		
調査結果	4 月の発生量 ( 平年比 )	やや多	
予報	4 月からの増減傾向	↓	
	5 月の発生量 ( 平年比 )	やや多	
予報の根拠		例年の発生量の推移 ( ↓ )	



調査結果

今期と例年の発生推移




・発生ほ場率83.3% ( 例年 : 41.7% ) 、一部ほ場で多発

防除のポイント

・発生初期の防除が有効であるので、被害葉が出はじめたら、薬剤散布する。

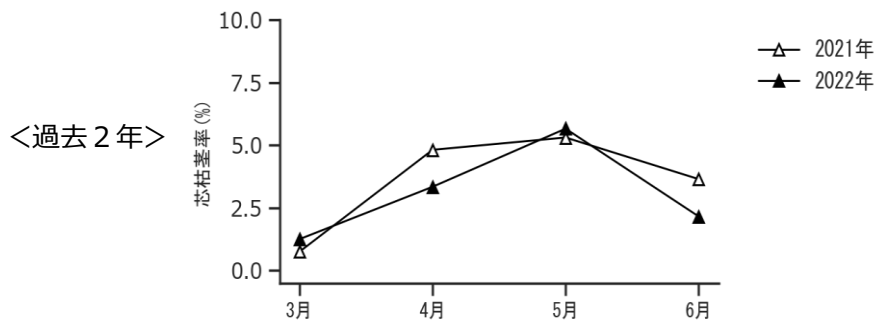
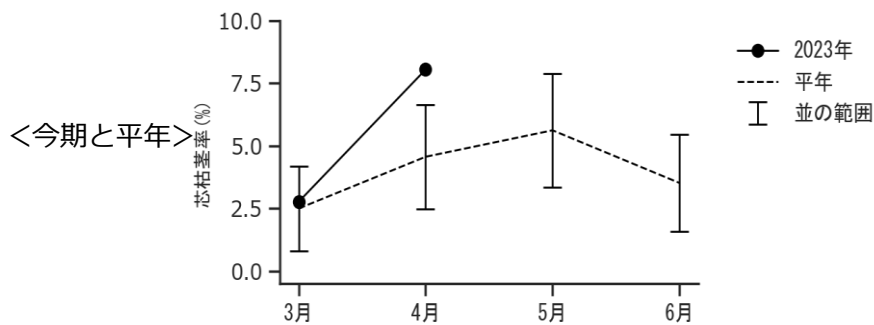


被害葉

作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	4 月からの増減傾向	↗		
	5 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


芯枯茎率の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、優先種はカンシャシンクイハマキであった。
- ・ 発生ほ場率100% (平年 : 94.6%)

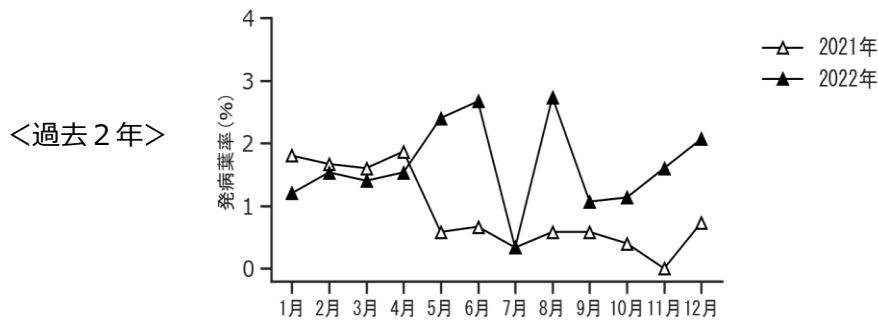
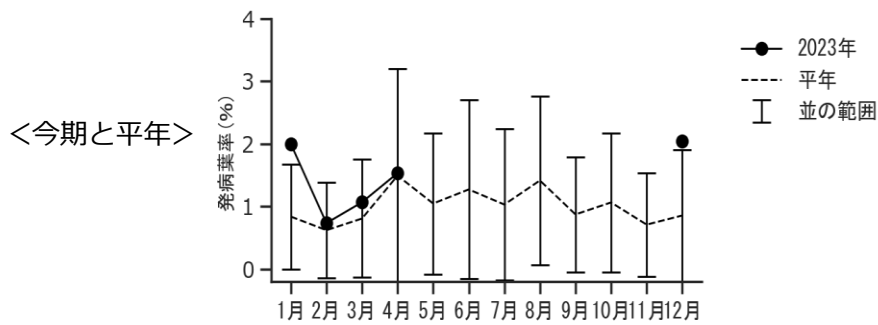
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、植付けおよび株出し管理時から生育初期にかけての防除を徹底する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① そうか病		
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並	
予報	4 月からの増減傾向	↓	
	5 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果

発病葉率の推移




・発生ほ場率60.0%（平年：40.9%）

防除のポイント

・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

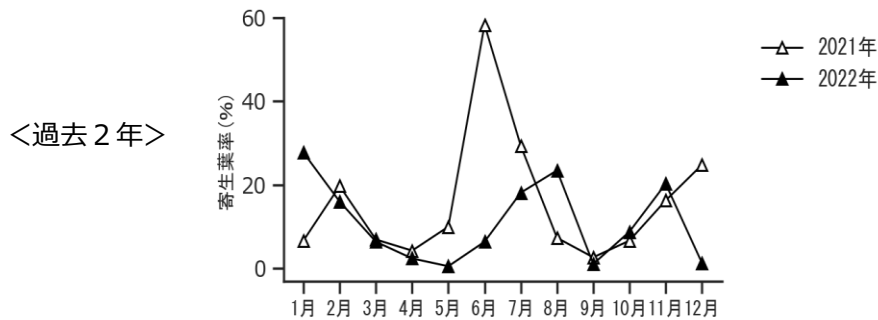
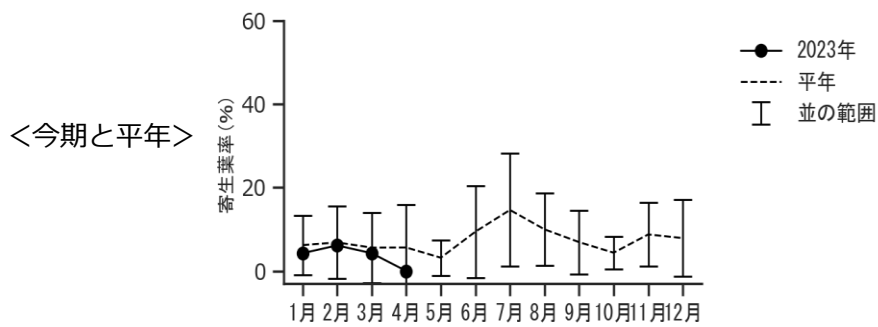
被害果→



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類		
調査結果	4 月の発生量（平年比）	(発生なし)並	
予報	4 月からの増減傾向	↓	
	5 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果

寄生葉率の推移




- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率0%（平年：29.5%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

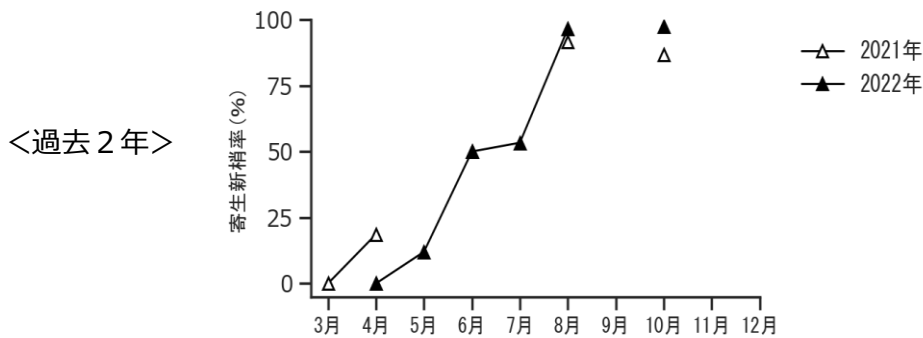
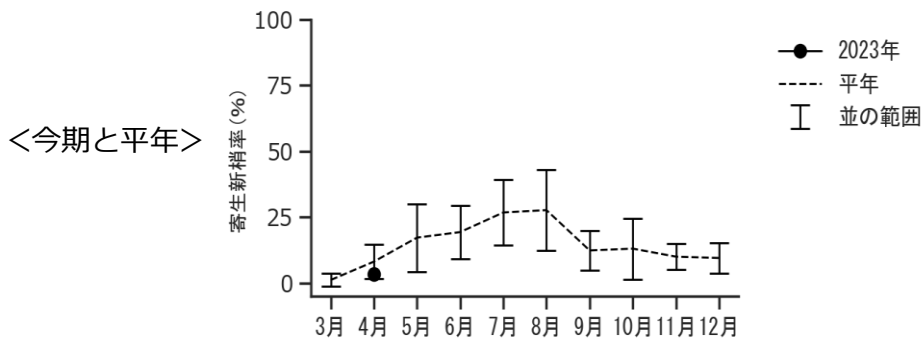


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミカンハモグリガ		
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果


寄生新梢率の推移



・発生ほ場率25.0%（平年：51.3%）

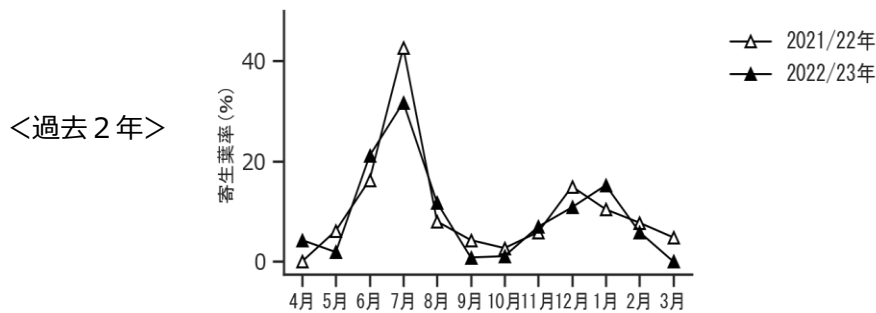
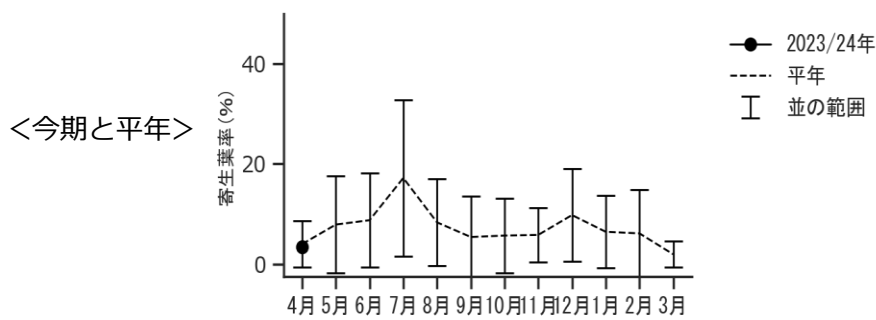
防除のポイント

- ・被害葉はかいよう病が発生しやすいため、除去に努める。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

寄生葉率の推移




- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率40.0%（平年：29.5%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

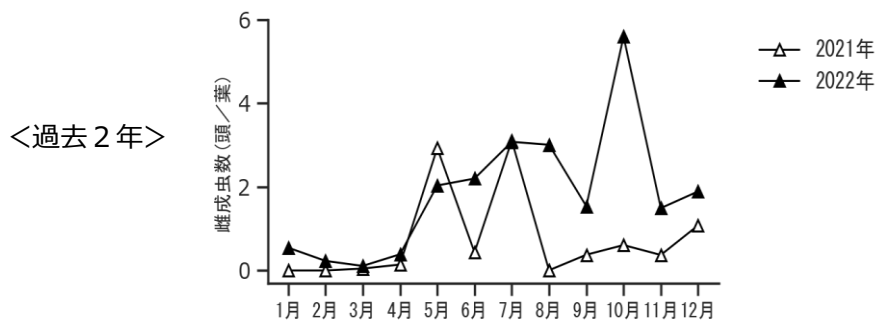
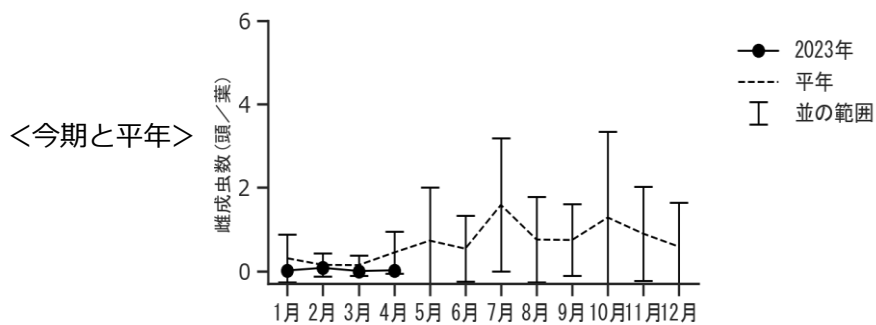


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率25.0% (平年：44.4%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状



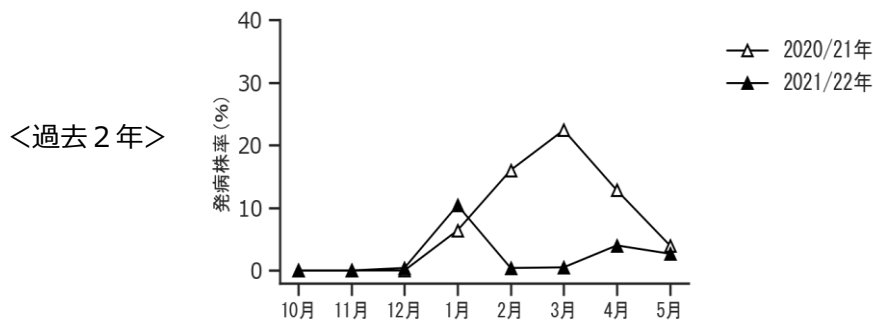
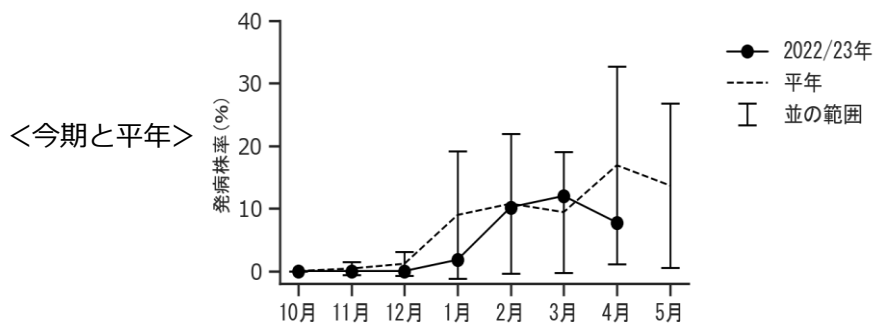
マンゴーツメハダニ



作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↘	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率62.5% (平年 : 47.2%)

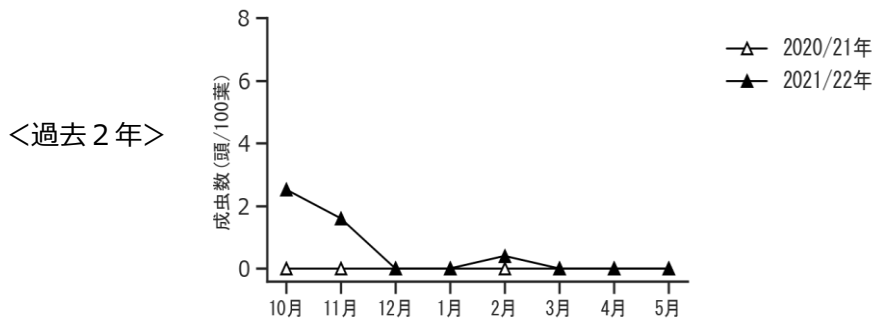
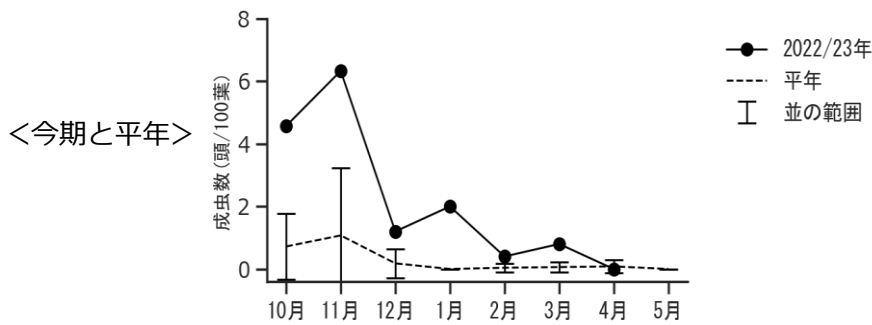
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	4 月からの増減傾向	→	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率0% (平年 : 4.2%)

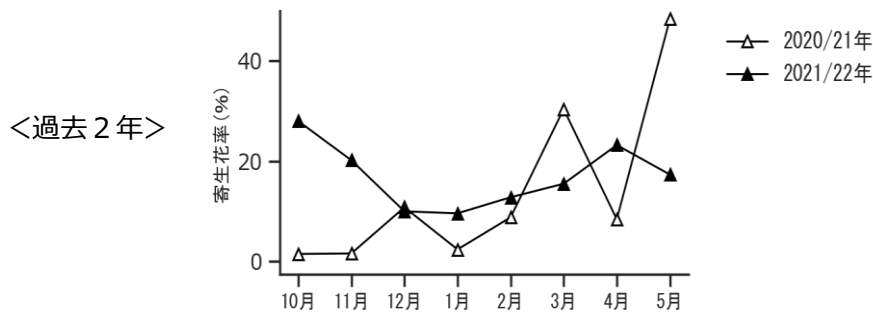
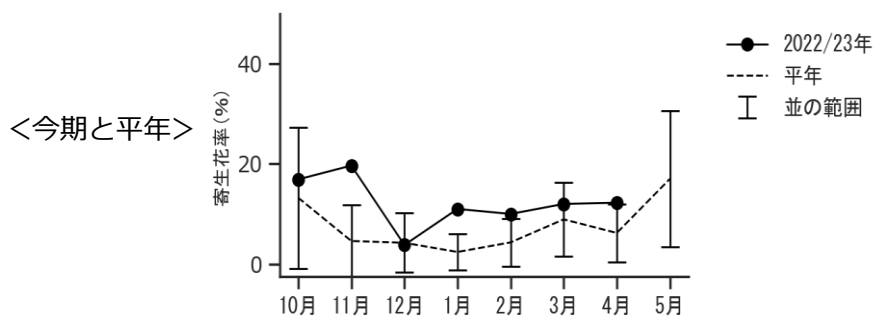
防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② ヒラズハナアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


寄生花率の推移



・発生施設率87.5% (平年 : 41.7%)

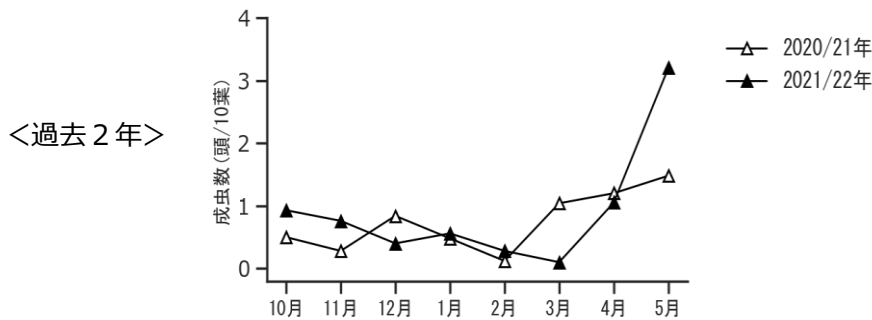
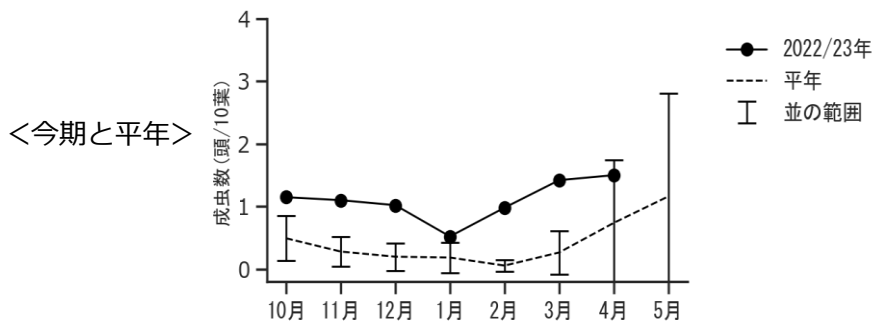
防除のポイント

- ・主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へタ部や果梗部が黒変する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報	4 月からの増減傾向	↗		
	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率75.0% (平年：41.7%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窗は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

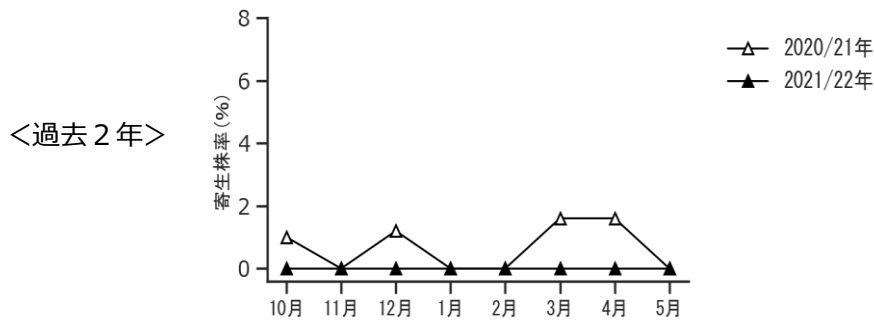
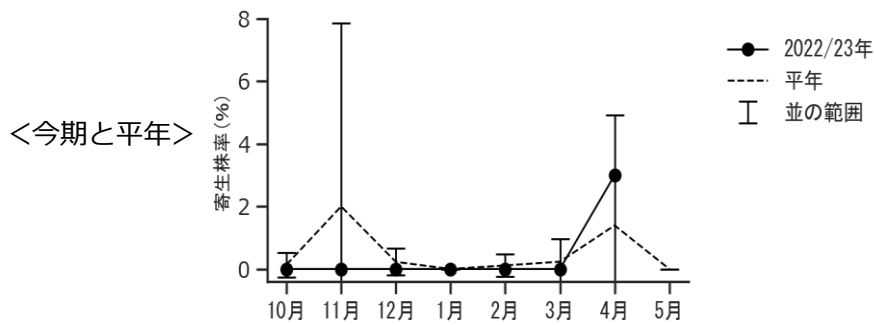


幼虫

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類			
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報	4 月からの増減傾向	↘		
	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)		

調査結果


寄生株率の推移



・発生施設率25.0% (平年 : 6.1%)

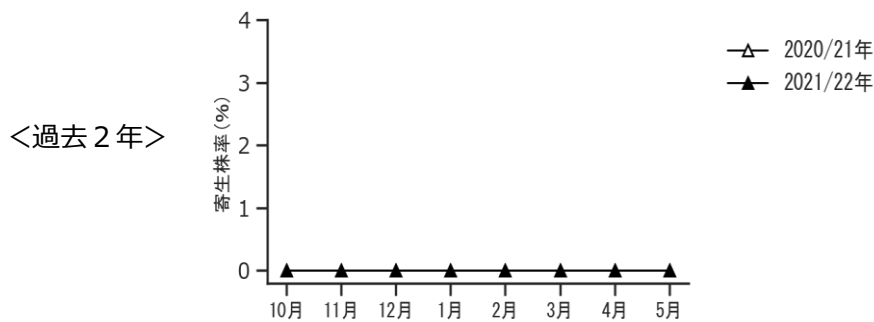
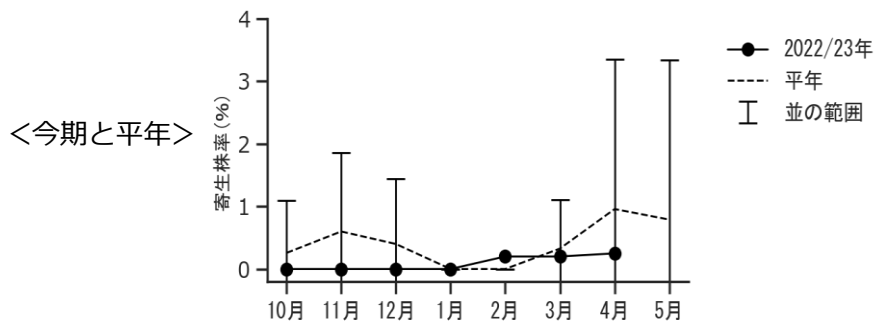
防除のポイント

- ・アブラムシ類はキュウリモザイクウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類			
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報	4 月からの増減傾向	↘		
	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果


寄生株率の推移



・発生施設率12.5% (平年 : 8.3%)

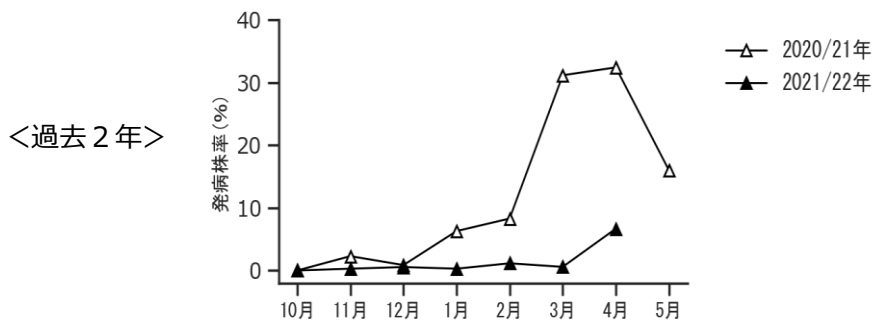
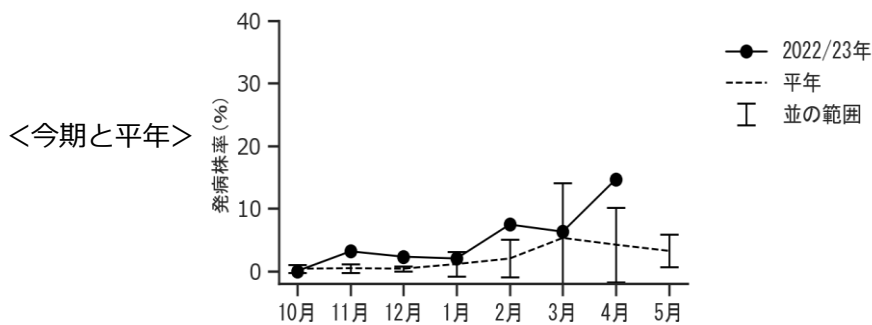
防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	黄化葉巻病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予 報	4 月からの増減傾向	↓	
	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率100% (平年 : 39.6%)

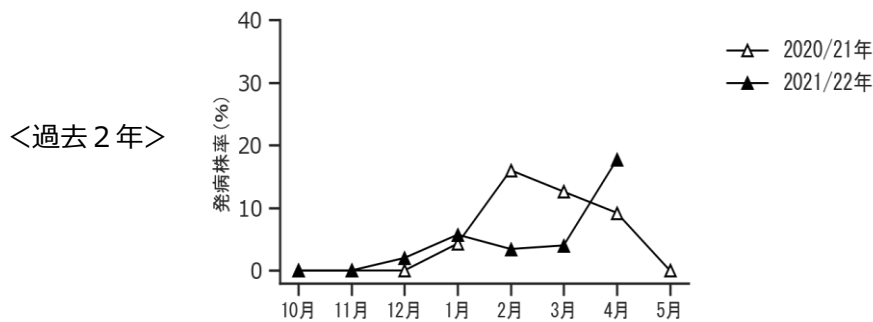
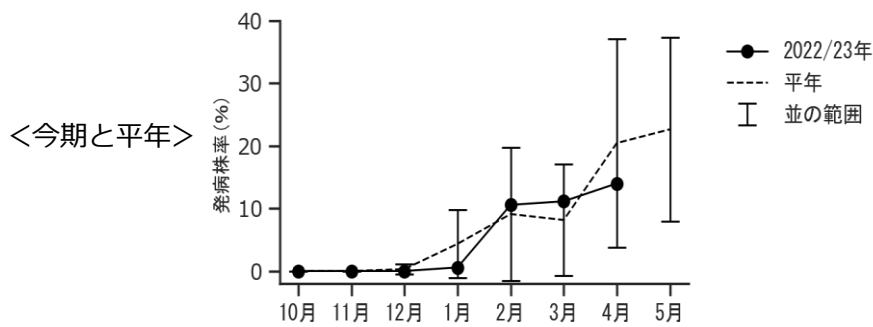
防除のポイント

- ・媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
- ・罹病株や摘葉残さは伝染源となるため、施設外に持ち出しビニール袋に入れるなどして密閉処分する。
- ・ムラサキカタバミやノグシ等の雑草は本病に感染し、次期作の伝染源となるため除去する。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

発病株率の推移



・発生施設率33.3% (平年 : 45.3%)

防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・通風が悪いときに多発しやすいので、老葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

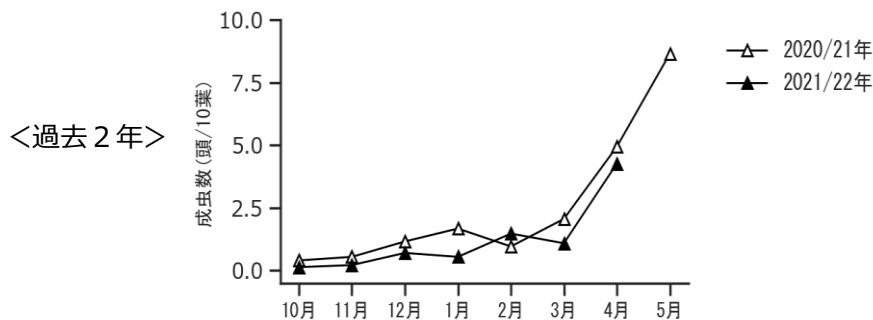
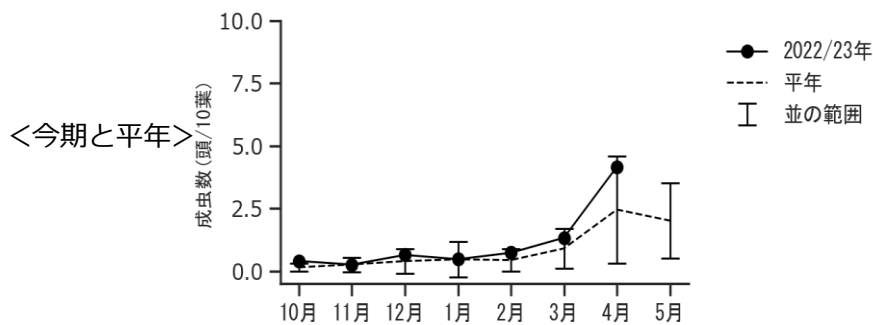


作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↓	
	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	



調査結果

成虫数の推移




・発生施設率100% (平年 : 66.0%)

防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

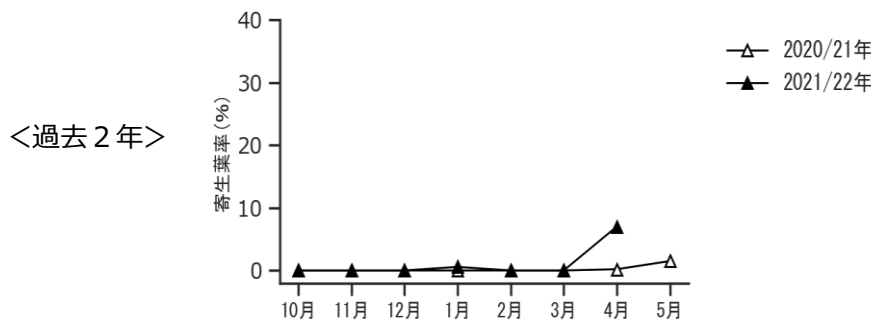
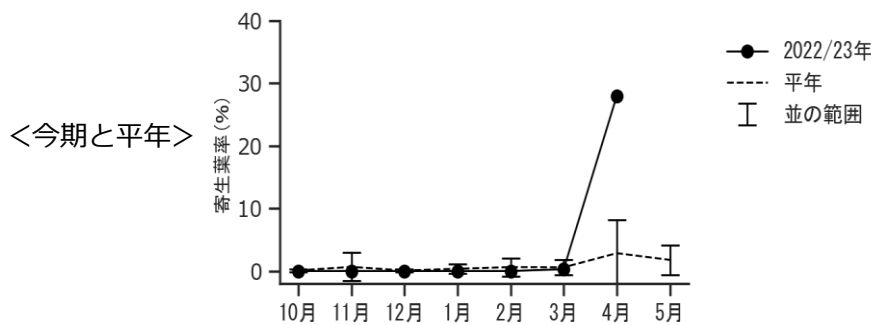


幼虫

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	4 月からの増減傾向	→	
	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

寄生葉率の推移



・発生施設率66.7% (平年：26.4%)、一部施設で多発

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは発生源となるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・本種は多数の在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・幼虫期間が比較的に短いため、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- ・農薬やその他の防除資材の効果は幼虫の体色で判定する。生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒色に変化する。



幼虫の死骸  
(農薬などで死亡すると黒色に変色)